

2023年（令和5年）度
海外帰国生徒入学試験（国際バカロレア等を含む）A日程 問題

小 論 文

2022年10月23日 実施

【解答上の注意】 答えは別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。
この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

アメリカ人はストレートにものをいう、というのが定説化しているとすれば、日本人の場合は逆に、はっきりものをいわないというのが一般化した印象であろう。クリントン米国大統領がエリツィン・ロシア大統領に対し「日本人がイエスというときの多くは、ノーの意味だ」（“When the Japanese say yes to us, they often mean no.”）と忠告したのはよく知られている。

「日本人は面と向かって断ることを嫌う」（バーンランド）ので、遠回しに断ったり、やんわり拒否したり、結論を先延ばしにする、という特徴は多くの日本研究、コミュニケーション研究でも指摘されている。そうしたやり方が誤解を招くことは、日米繊維交渉などの例が物語っている。

日本人にはそういう特徴がある、と警戒していたとしても実際の場合で外国人が妥当な判断をすることは至難の業であろうし、その際の通訳の困難さは先にも述べたとおりである。面倒になると、クリントン大統領のように「イエスといったらノーだと思え」と単純化することになるだろうが、日本人の、いや人間のコミュニケーションはそれほど単純ではない。ステレオタイプを外れた個人差もあるし、イエスのいい方もノーの度合いもその都度異なる。

それでも、本音と建前がどうであれ、日本人が何かをいえば、通訳者はその発言を通訳することができる。どのように通訳するかは問題だとしても、少なくとも通訳を試みることはできる。困ってしまうのは、何も発言がないときの通訳で、これはどうしようもない。

面と向かって断るのを避けるために日本人がよく使う手のひとつは、返事をしないことである。返事をしない、つまり何もいわずに沈黙する。これは通訳できるであろうか？

英語では“Silence gives consent.”（沈黙は承諾のうち）ということわざがあるくらいで、黙っていれば同意したと受け取られてもしかたないことが多い。もちろん、英語でも手紙での依頼などに返事を出さなければ、拒否、という意志表示になる場合もあるが、日本人はそれを面と向かってやるのである。この拒否の意味を込めた沈黙に外国人が当惑したり誤解した場合、通訳者は何か説明して“文化の通訳”をするべきなのであろうか。それとも、発言がないかぎり通訳者も黙る、という当然のことに守るべきであろうか。

デイビッド・ハルバースタム（David Halberstam）は日米自動車摩擦を描いたベストセラーThe Reckoningの中で、吉田茂首相とマッカーサー元帥の確執に触れている。それによると連合軍最高司令長官マッカーサーは吉田茂を“monumentally lazy and politically inept”（とてつもなく怠慢で政治的に無能）と評し嫌ったらしいが、じつはそれはマッカーサーの読みの浅さであるらしい。吉田茂は怠け者でもなく能なしでもなく、自分として、あるいは日本政府として受け入れられないような案をGHQが出してくると、聞こえないふりをしたりなんとなくグズグズとして実行に移さなかったりした、というのである。

敗戦国の首相が面と向かって反論したって通るわけもなかったろうし、吉田茂が一枚上手ということもあるのだろうが、これもひとつの日本式拒否の方法である。通訳が介在したとすれば、その通訳者は間に立ってさぞ苦勞したことであろう。

（鳥飼玖美子『歴史をかえた誤訳』より）

《問 題》

課題文を読み、以下の指示に従って答えなさい。

- (1) 日本人がイエスと答えた場合、通訳者はどうすべきだと考えるか。そのまま直訳すべきか、外国人が誤解しないように意識すべきか。課題文を参考にしながら200字以上300字以内で解答欄①に書きなさい。
- (2) 日本人が沈黙した場合、通訳者はどうすべきだと考えるか。課題文の内容を踏まえながら300字以上500字以内で解答欄②に書きなさい。